

2011年11月2日

内閣総理大臣 野田佳彦様
文部科学大臣 中川正春様

新日本婦人の会
会長 高田公子

放射能副読本を、児童生徒の不安にこたえ 原発の危険性を正しく教える内容に改訂するよう求めます

文部科学省は放射能に関する教材用の副読本と教師用の解説書を、今月初旬から各学校に配布するとしています。福島第一原発事故後、原発や放射能に関する新たな教材が求められていました。しかし、今回の副読本はレベル7の過酷事故を起こした原因、半年経過してもなお深刻な放射能汚染の実態、放射線被ばくの危険性にほとんど触れていないなど多くの問題点があり、児童生徒や教師、保護者の期待にこたえるものにはなっていません。

被災地の福島県をはじめ、隣接する都県の子どもたちが放射能の脅威にさらされ、親も教師も一日も早い除染と収束を求めているとき、この副読本が実態に即し、役に立つものとはとてもいえません。また、国民や現場の教師の意見を反映させることなく、文科省が作成した副読本をいきなり配布するやり方もあまりに一方的です。

福島の大参事を二度と繰り返さないために、子どもたちの年齢に応じて、原発や放射能に関する科学的な知識、その危険性も正しく認識し、自ら考え判断することができるようにすることこそが求められます。政府・文部科学省がその責任を果たすよう、以下の点を要請します。

- 1、原発事故の原因や実態、被ばくの危険性、食の安全の問題など、子どもたちの不安や疑問にこたえられる内容の副読本に改訂すること